

# 取手アートプロジェクト 2008 会期決定！

会期 2008年11月

1日(土)・2日(日)・3日(祝)・7日(金)・8日(土)・9日(日)  
14日(金)・15日(土)・16日(日)

これまで取手市内で様々な活動を展開してきた取手アートプロジェクト(TAP)は2008年で10年目を迎えます。節目の年にあたる本年は茨城県内で第23回国民文化祭が行われ、TAPは取手市における「現代アートフェスティバル in 取手」の中核事業としても位置づけられています。「全国公募展」の年にあたる本年は、全国から作品プランを募集し、11月の会期に向け、市内にある独立行政法人都市再生機構・取手井野団地にて10月よりレジデンス(滞在制作)を行うと共に、住民との交流を図ります。また制作された作品は取手井野団地を中心とする市内各所に展開されます。また、TAPが数年来交流を深めてきた韓国・アンヤン市のSeok-su Art Project(SAP)との「国際交流事業」を行う他、毎年継続している「こどもプログラム」を展開します。昨年茨城県との共同で立ち上げた「茨城県芸術の門創造会議」では引き続き人材育成事業を行い、守谷市のアーカス・プロジェクトとの連携によって茨城県南地域における文化芸術に対する素地をデザインしていきます。

## 取手アートプロジェクト 2008 主要事業

- ①全国公募展～団地でレジデンス
- ②韓国との国際交流事業
- ③小学1年生を対象としたこどもプログラム



取手井野団地

会場	取手井野団地を中心とする茨城県取手市内各所
参加作家数	20組を予定(ゲスト・プロデューサー×1組、ゲスト・アーティスト×3組、全国公募展選出作家×10組(予定)、国際交流事業参加作家×6組)
主催	取手アートプロジェクト実行委員会 (取手市/東京芸術大学/アート取手/取手市教育委員会/取手市商工会/財団法人取手市文化事業団/ 茨城みなみ農業協同組合/取手美術作家展) 第23回国民文化祭・いばらき2008 (文化庁/茨城県/茨城県教育委員会/取手市/取手市教育委員会/第23回国民文化祭茨城県実行委員会 第23回国民文化祭取手市実行委員会) 茨城県南芸術の門創造会議 (茨城県/取手市/守谷市/取手アートプロジェクト実行委員会/アーカスプロジェクト実行委員会)
協力	取手井野団地自治会/独立行政法人都市再生機構/財団法人茨城住宅管理協会

## 本件に関するお問い合わせ

取手アートプロジェクト実施本部

〒302-0024 茨城県取手市新町2-3-16

TEL/FAX: 0297-72-0177 (OPEN: 火・金 13:00 ~ 17:00)

E-mail: tap-info@ima.fa.geidai.ac.jp

Web: <http://www.toride-ap.gr.jp>

担当: 中山亜美 (080-5544-6597)

## ①全国公募展～団地でレジデンス

## 今年の TAP は井野団地で滞在制作！

## 「団地でレジデンス、あなたならどうする？」

今年の全国公募展では選ばれたアーティストが取手井野団地に滞在し、住民とのコミュニケーションや滞在で感じたことを反映した作品制作を行います。使用する部屋は 16 部屋を予定。団地の敷地や部屋等に作品が展開されます。また、ゲスト・プロデューサーとして建築家ユニットのみかんぐみを招き、独自の視点から作品の選定・設置のディレクションを行います。その他ゲスト・アーティストとして、まちを舞台に観客参加型のツアーパフォーマンスを行う Port B やフードジャングルを展開しているデザインユニットの生意気、団地をテーマに制作している齋藤芽生を招聘することによって、様々な手法により生み出された作品から「団地」「コミュニティ」に対する新たな視点・魅力を伝えます。

一昨年度の全国公募の応募件数は 251 件、TAP2008 に応募されたプランは 8 月 9 日・10 日の公開選考会で選考し、選定されたアーティストは 10 月 1 日～30 日の約 1 ヶ月間団地の各部屋に滞在し、11 月の会期で作品として公開されます。

ゲスト・プロデューサー

みかんぐみ（建築家ユニット）



みかんぐみ《FMヨコトリ・チケットブース》

ゲスト・アーティスト

みかんぐみ（建築家ユニット）

齋藤芽生（画家）

生意気（クリエイティヴユニット）

Port B（プロジェクトユニット）



## ●取手井野団地とは・・・

昭和 44 年（1969 年）に建てられた日本住宅公団（現在の UR 都市機構）の賃貸住宅。茨城県で初めての公団住宅として管理開始。取手市内最大の団地であり翌年（1970 年）取手には市制が敷かれた。取手駅から徒歩 15 分と交通の便がよく、幼稚園、小中学校にも隣接しており、築 39 年となる現在 2276 戸に 2112 世帯、約 6000 人の人びとの生活の場となっている。

## 公募に関するスケジュール

6 / 17	WEB による募集開始
6 / 27	公募チラシによる募集開始
8 / 3	公募〆切
8 / 9・10	公開選考会
10 / 1～31	アーティスト滞在期間
11 / 1～	TAP2008 開催

## 公開選考会

日時：8 月 9 日（土）・10 日（日） ※一般投票あり、ゲストによる選考は 10 日のみ

会場：東京芸術大学大学美術館取手館（取手校地）

審査員：みかんぐみ（建築家ユニット）

遠藤水城（キュレーター・ARCUS Project ディレクター）

熊倉純子（東京芸術大学准教授）

彦坂勝弘（取手井野団地自治会会長）

宮沢章夫（劇作家・演出家・作家）

進行：渡辺好明（東京芸術大学教授・取手アートプロジェクト実施本部長）

## ②韓国との国際交流事業（国民文化祭・いばらき 2008 関連事業）

### 韓国と取手で6組の作家が1ヶ月ずつの レジデンスプログラムを行います！

韓国・アンヤン市にあるギャラリスペース「Stone&Walter」が主催する『Seok-su Art Project (SAP)』と TAP が交互にアーティストを派遣し、日韓のアートプロジェクトの交流を図ります。TAP からは過去の参加作家から 3 名を選出、彼らは 8 月より韓国にて滞在、展覧会を終えた後、10 月には SAP の選出アーティスト 3 名と共に取手井野団地で滞在制作を行い、TAP2008 の会期にて展示します。双方のレジデンスプログラムでは住民とのワークショップも予定。地域を巻き込んだレジデンスプログラムを展開します。

滞在期間      SAP 8/1～9/1      (会期 8/28～9/8)  
                    TAP 10/1～11/1      (TAP2008 にて展示)

TAP 選出作家      金沢寿美 (TAP2002 参加)  
                         鈴木勲 (TAP2005・2007 参加)  
                         山中カメラ (TAP2006 参加)  
                         ※韓国からの作家は 6 月半ばに選出予定



SAP の会場となるソックス市場

## ③こどもプログラム

### 取手市内の小学 1 年生が全員で取り組む作品展。

こどもプログラムは TAP の初年度の 1999 年から始まった児童画展より継続し発展し続けています。取手市内の全小学 1 年生に絵や作品を作ってもらい、会期中その作品を一堂に優劣をつけることなく展示します。また、こどもの作品に対して来場者が手紙を書く「おともだちのさくひんにおてがみをかこう！」企画も引き続き実施し、作者と観客、双方向のコミュニケーションを生み出します。2005 年度から始まったアーティストの学校派遣授業は小学校のみならず中学校まで広がりを見せています。昨年度は 9 件実施し、今年も希望する学校を募り実施します。



昨年のアーティスト派遣

## 取手アートプロジェクトとは

取手アートプロジェクト (TAP) は、市民と取手市、東京芸術大学の三者が共同で行っているアートプロジェクトです。若いアーティストたちの創作発表活動を支援し、広く人々が芸術に身近に触れる機会を提供することで、取手が文化都市として発展していくことを目指し、1999 年より活動を続けています。

TAP2008 のブログは日々のニュースを随時更新しています。

2008 年度の企画の詳細は、6 月中旬にウェブサイトにて発表してまいります。

Blog: <http://tap2008.exblog.jp/> URL: <http://www.toride-ap.gr.jp>

## ①- 1 全国公募展 ゲスト・プロデューサー



みかんぐみ（建築家ユニット）<http://www.mikan.co.jp/>

現在は加茂紀和子、曾我部昌史、竹内昌義、マニュエル・タルディッツの4人による建築設計事務所。1995年にみかんぐみ共同設立（当時有限会社、2002年から株式会社）。コラボレーションやワークショップも積極的に行い、さまざまな角度から制作活動を行っている。住宅、公共建築作品のみならず、横浜トリエンナーレの《FMヨコトリ・チケットブース》(2005)、BankART NYKの《ハンガートンネル》(2005)や、越後妻有アートトリエンナーレにおいて空家を再生した《BankART 妻有》(2006)など、現代アートからも大きな注目を集めている。また、団地について考察した『団地再生計画』(INAX出版2001)がある。



みかんぐみ《愛・地球博トヨタグループ館》

## ①- 2 全国公募展 ゲスト・アーティスト



齋藤芽生《晒野団地四畳半詣》のうち  
《花咲翁の色褪せぬ神木》

齋藤芽生 / さいとう めお（画家）

1973年東京、八王子の団地に生まれ7歳まで居住。1996年東京芸術大学美術学部絵画科油画専攻入学。2001年東京芸術大学大学院後期博士課程油画専攻修了。緻密な絵画と造語を用いた独特な言葉で、失われ行く日本の情念や文学性を描きだす。齋藤芽生の重要なテーマに「団地」、「花輪」、「図鑑」がある。団地の無機質で画一的な窓に生きる多様な存在を描いた《晒野団地入居案内》、廃墟化する団地を祠（ほこら）にみたてた《晒野団地四畳半詣》などがある。TAP2008では、団地をテーマにインスタレーションを予定。



生意気《kinky muff land III- edible urban party  
jungle studio (free food forest) foundation》

生意気 / なまいき（クリエイティブユニット）<http://www.namaiki.com/>  
ニュージーランド生まれのディヴィッド・デュバル・スミスとイギリス生まれのマイケル・フランクによるクリエイティブユニット。グラフィックを中心にハードなゴスペルミュージックや大工仕事、ガーデニングなど、持ち前の遊び心で幅広く活動している。2005年から空き地緑化 graffiti プロジェクト（食べれる植物の種まき）を始め、今は鎌倉でフードジャングルを作っている。



Port B《東京/オリンピック》  
撮影・小崎哲哉

Port B/ ポルト・ビー（プロジェクトユニット）<http://portb.zone.ne.jp>  
2002年東京にて結成。高山明を中心とするプロジェクトユニット。活動は多岐にわたり、ブレヒトの第一詩集『家庭用説教集』を素材に「教育劇とは何か」を探った作品や、H ミュラー《ホラティ人》、E シュレーフ《ニーチェ》、E イェリネク《雲。家。》など「演劇(的)テキスト」に取り組んだ舞台を作る一方で、高島平をフィールドワークし団地で暮らす人達を舞台に招き入れた《Museum: Zero Hour ～J.L ボルヘスと都市の記憶～》や、隅田川をフィールドワークした成果を謡曲『隅田川』にクロスさせ、失われた「都市の夢/個人の夢」を甦らせた《Re:Re:Re:place ～隅田川と古隅田川の行方(不明)～》といったドキュメンタリー性の強い舞台が他方にある。更に実際の都市をインスタレーション化する“ツアー・パフォーマンス”を都内各所で展開、巢鴨地藏通りを歩く《一方通行路 ～サルタヒコへの旅～》、はとバスを使った《東京/オリンピック》、サンシャイン60周辺を巡った《サンシャイン62》などがある。

## ②韓国交流事業 TAP 選出アーティスト



金沢寿美《Redline》

## 金沢寿美 / かなざわ すみ (アーティスト)

1979年兵庫県神戸市にて、在日韓国人3世として生まれる。京都精華大学大学院芸術研究科卒業。スペイン(1998)韓国(2006)への留学を経験。人間社会における集団性の問題をテーマに多くの作品を制作。『取手アートプロジェクト2002』では、取手市の境界線をモチーフに地域の特色・問題をテーマとした作品を発表。近年の作品では、『神戸アートアニュアル』(2004)において商店街の人々との交換日記を通じ、個々の人生と地域(社会)との関連性(歴史的)をテーマとした作品を発表。

鈴木勲《バイオ耕うん機の旅  
(白州-琵琶湖-白州)》鈴木勲 / すずき いさお (旅人) <http://www.isao-suzuki.com/>

1969年東京生まれ。美術家兼旅人兼エコロジスト。旅とエコロジーをそれぞれ美術作品として可視化している。2001年以降、ソーラー・サイクルリクシャーによる北インド8大聖地巡礼、太陽光・風力発電と電動アシスト自転車によるモンゴル横断(2002)、電動アシスト自転車によるヒマラヤ越え(2006)、舞踊家田中泯さんの耕運機を借りて廃油を燃料とした山梨県白州から琵琶湖周遊(2007)など、地球規模でエコロジカルな旅を実現している。現在、廃プラスチック油化燃料によるモペットバイク日本縦断の旅を計画。昨年はeco japan cup 2007カルチャー部門にてエコアート・グランプリを受賞。



山中カメラ ポートフォリオ

## 山中カメラ / やまなか かめら (特殊写真家)

1978年山口県生まれ。特殊写真家・パフォーマー。村上隆のGEISA16にて「銀賞」受賞(2004)。とう魔とうじ主宰「フロント」所属。自作の写真、映像、歌が融合した独特の「カメラショー」をライブ形式で展開。撮影行為自体をパフォーマンス作品とした《一人合唱》でNHKデジタルスタジアム、デジタルアートフェスティバル東京(2007)出演。またカメラを使って握る《カメラ寿司》などのパフォーマンス。自作の写真装置《オッパイカメラシステム~恥部写》を使った撮影パフォーマンス。取手アートプロジェクト2006では、オンド・マルトノを使った《マルトノ音頭》作曲、振り付け。横浜BankARTでは7日間に渡り行なわれた『Wあつしの大運動会』(2007)をプロデュースするなど、活動の範囲は多岐に渡る。